



平成6年11月20日
武蔵野市
発行所 武蔵野市
〒180-0001
TEL. 3720-2657



日本郵政局があれくなく
て来た昭和十九年、私達
は学校から工場へ、勉強の
場を移しました。油まみれ
になりながら、機関銃の部
品を作っていました。

しばらくして、体を悪くし
たため、厚生課に異動し、
健康保険の事務をとる事に
なりました。

工場と事務とは全然別世界
、係長も、次長も、きれいな
女性で、今まで家族しか
知らなかった私には、非常
にまぶしく、胸ときめく思
いをしました。

他の生徒が、油まみれにな
りながら働いているのに、
私だけ、こんな思いをして
いいのかなと考えたりもし
ました。

しかし、昭和二十年三月
東京大空襲で、工場は焼失
してしまい、私の青春の一
ページもザ・エンド。



青年団音楽部思い出

昭和十三、四年頃は軍隊
に召集される人が多く、音
楽部は朝晩と見送りや忙
しく、朝早い時などは用賀
神社の外廊下で夜明かし、
午前三時頃に出征者の家へ
行きました。行進曲を吹奏
しながら神社に向い、無事
を祈願し、用賀駅五時五分
の一番電車の出発を見送り
ました。

音楽部の最も盛んな時は
昭和十五年の紀元二千六百
年祭で、二十名近くいまし
た。当時の部員も二、三年
で出征しました。

戦後寮舎を捜したばかりか
らず、昨年信号ラッパ一挺
がみつかりました。



あの頃は

過ぎ去りし五十年

ミリアナ柳田に思う

五十年、河野を勇
本土防衛の為、中国宜昌
より日本に向け昭和二十年
五月に出発、七月中旬山海
関を通過旧満洲国に入る。

ソ連との戦況悪化のため足
止め、南満洲四平街で終戦
を迎える。当時二十才の若
者も、終戦より五十年、今
古稀を迎えようとしている。

終戦の十月黒河を経て、シ
ベリアパイカル湖そばのウ
ラヌレで二年、帰すと云う
ことでナホトカの港海軍設
に一年半、飢えと寒さと無
気力のため多くの戦友を失
う。此の苦しみは経験した
者でないとは解らない。

北方領土と共に此の件も、
北方領土と共に此の件も、



昭和二十八年黒川から現
在地に来ました。当時この
あたりは殆ど畑で隣家と二
軒だけの誠に淋しい環境で
した。未舗装の道の両側に
は雑草が生い、雨の日は泥
になり、歩

き辛く離
れたい。今
は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今

は、雨の日は
泥になり、歩
き辛く離れ
たい。今



此の頃マハラに五十年
ああ終戦のことかいな、
其んなに歳月たったのか？
半世紀とは驚いた
すぎぬ方を眺めつつ
老衰おもひ出呼子どり
今の風景みてあれば
新玉線に（？）
タワーとビルが重なり
ビル又ビルの勢ぞうい
屋間人口一万人
ライトアップが美しい
駅に続いた地下街は
サービス業やレストラン
（？）局やら金融業
全国キツパに航空券
丸く囲んだ人工地
駅前ここらは田舎です
雨止み待つて下子供達
丸網もって追っかけた
新地整理の工事中
満洲軍変がはじまって
フック戦争十五年
欲しがりません勝つまでは
着物にわしてモンペはき
敵が心のかん食で
ハチ花竹槍防空すきん
生活物資は皆配給
炭をかかえて貧民院
ピカドン一発終戦だ
夢中で働き回道り
インフレ退治ヤミ退治
経済成長なれ遂げて
ドル百円になっちゃった
人生八十一年時代
三K（経済・健康・家族）
上手に暖めて
丈夫で長生き
仕ましようね。



“ひろば”ご希望の方は 用賀出張所においてありますので どうぞ

回覧

郷土紹介

品川用水堀

時の流れの中で、町の姿も大きく変わって行きます。上賀賀二丁目にある馬場公苑は、昭和十四年三月に工事着手、翌十五年九月に開苑した施設ですが、当時その東側に品川用水が流れ、両岸には、うっそうと木々が茂っていました。

この品川用水は江戸時代の初期、寛文年間（一六六〇年代）に品川領八幡村にあった細川利重家の屋敷内庭園に水を引く為、玉川上水を境村で分水、延々約三〇キロメートルを開削したのが始まりと云われ、後に品川領九ヶ村の村々の農業用水に転用される様になり

ました。当初は世田谷領内でも、世田谷村に二ヶ所、用賀村二ヶ所、弦巻村一ヶ所と取水口がありました。元禄二年（一六八九）品川領村々の要望により全て閉鎖されてしまいました。

多摩川に沿って六郷用水が完成したのは慶長十四年（一六〇九）ですから、品川用水は、その五十年後に出来た事になります。その為か、馬場公苑正門より左側一帯は、古くから新堀跡と呼ばれていました。

この品川用水堀も、戦後の昭和五年から二七年にかけて埋め立てられ、舗装道路に姿を変えました。今、道の両脇の古木だけが往時の面影を残しています。



文芸

ザブトン

昭和十三年 小成 健介

「いてっ。」

釣りばりにゴカイをつけていた僕は、まゆげにもゴカイにかまれた。でもうちのいとこより僕の方が少し釣っている魚の量が多かった。

夜だったので長良川の押勢大橋の上にはほとんど人がいなかった。いるのは魚を釣っている人ぐらいで、あとは車が後ろを通っているだけだった。このへんで釣れる魚はワケ、十五センチくらいで五月ぐらいいには、三十センチのものが釣れるといなかのおじさんが言っていた。

（三十センチ、釣れるかな。）と思いつきながらおもしろい釣りばりも水の中に投げ入れた。



竿をたてかけておいてジニースを飲んでいたら、もうすこしで竿が落ちそうになっていた。急いで竿を引いて一生懸命糸をまいた。

でもなかなかあがってこない。それに重かった。三三センチの魚が釣れた。八月半ばなのにこんなのが釣れた。

三十分でやめようとおじさんに言われた。海水が川に流れてきて海の魚がきたのだ。そして十分。

またきた。急いで糸をまいた。ザブトンが釣れた。ザブトンと僕が言った。だが、よく見たらエイだった。海水が流れてきてエイがついたのだ。

エイはザブトンにみまうがえるほどよく似ていた。

たかひの日記

昭和二十年 一月二十六日
大坪 智恵子
タカ次男が生まれました。

昭和二十年 一月二十六日
大坪 智恵子
タカ次男が生まれました。その次男も来年五十五才になり、三人の父親です。出征中の主人の無事を願う三人の子供を育てる苦労のなかにもその成長は母親のたのしみでした。その頃、タンスの中の衣類が食料に変わってゆきました。子供達の元気な顔、くったくのない寝顔を見ると、明日は何を食べさせようかと考える毎日でした。

報が出るたびに、名ばかりの防空壕の中で、子供達におとぎ話をして警報解除を待ちました。

そして、与謝野晶子さんの歌も口に出せず、乳飲み児を抱えての日々、八月十五日終戦のラジオを聞きました。

興謝野晶子
君死にたまふことなかれ
旅頭を国軍の中に身を致して
明治三十九年（一九〇四）
あゝをとうとよ、君を泣く、君死にたまふことなかれ、赤に生れし君なれば親のなさはまじりしも、親は刃をにぎりしめて人を殺せとをしへしや、人を殺して死ねよとて二十四までをそだてしや。

トビックス

日東小学校開校五十周年

明治十二且開校以来、卒業生が一万九百一名を数えた京西小では、開校百十五周年を機に、同窓会が発足することになりました。

設立総会は十二月十日（土）同小体育館で（時三分間）

十一月より利用されています。申込は玉川台区民センター（三七〇九一四二六一）

上賀賀公園の復興

下水道工事終了に先立ち四月にオープン。また西用賀通りの246号線への出口にある玉川台児童遊園も工事完了の来秋には復元予定です。



食飲、読書、スポーツ、芸術、の秋です。

五十年前の秋はと言えば、生きることに精いっぱいだった様です。

そして今、衆の始皇帝にみる様な、世界の美術を、居ながらにして鑑賞する事が出来る様になりました。

しかし、それ等の美術品の多くは、権力と犠牲の上に持ち込まれた歴史が背景にある事も忘れてはならない事ではないでしょうか。

余多の美術品に融れ、心豊かな日々を送る為にも、権力と犠牲の無い地球、の平和を願わずにはいられません。

